

## 審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1297 号	氏名	赤 司 桃 子
審査担当者	主 査	大 島 孝 一	(印)
	副主査	緒 子 裕	(印)
	副主査	淡 河 恵 津 世	(印)
主論文題目： <b>Diverse histomorphology of HER2 positive breast carcinomas based on differential ER expression.</b> (ER発現の差異に基づくHER2陽性乳癌の多様な組織形態)			

### 審査結果の要旨 (意見)

今回の研究は、HER2 陽性乳癌が、腫瘍形態および免疫応答の観点から LH-high 群と NLH 群に大別されることを明らかにした研究である。HER2 陽性浸潤性乳癌患者 166 名を luminal B (LH)群(n=110 [66.3%])と non-luminal (NLH)群(n=56 [33.7%])に分類し、さらに LH 群はホルモン受容体高発現 (LH-high)群(n=89 [53.6%])と低発現群(LH-low)群(n=21 [12.7%])に亜分類し、NLH 群は comedo 壊死、LH 群は中心癒痕が有意に多く見られ、免疫応答の観点からは、NLH 群で腫瘍間質のリンパ球浸潤 (TIL) と healing を有意に多く認めたことより、腫瘍形態および免疫応答の観点から LH-high 群と NLH 群に識別できる可能性を示した研究で、今後の治療法の選択の可能性を示唆するものである。審査にあたり、今後の展開、また研究内容に対する質問にも的確に回答が得られた。この論文は十分に学位に値するものと考えられた。

### 論文要旨

HER2 陽性乳癌はホルモン受容体陽性群と陰性群に分けられ、予後に違いがある。今回、我々は HER2 陽性乳癌サブグループ別に臨床病理形態学的特徴について検討を行った。

HER2 陽性浸潤性乳癌患者 166 名を luminal B (LH)群(n=110 [66.3%])と non-luminal (NLH)群(n=56 [33.7%])に分類し、さらに LH 群はホルモン受容体高発現(LH-high)群(n=89 [53.6%])と低発現群 (LH-low)群(n=21 [12.7%])に亜分類した。形態学的検討では NLH 群は comedo 壊死が多く見られるのに対して、LH 群は中心癒痕が有意に多く見られた。免疫応答の観点からは、NLH 群で腫瘍間質のリンパ球浸潤 (TIL) と healing を有意に多く認めた。腫瘍形態および免疫応答結果を用いた多変量解析より、LH-high 群と NLH 群はそれぞれ異なる特徴を有しており(P<0.05)、LH-low 群は中間的な性質を有していることが明らかとなった。

HER2 陽性乳癌は腫瘍形態および免疫応答の観点から LH-high 群と NLH 群に大別されることが明らかとなった。